

■映像演出概要

※システム及びハードは電気工事

コンテンツ作成及び組み込み、メディアプレーヤー用SDHCカード（8M）×2枚は展示

■本編（3分～5分、テロップ、SEあり）

- ナレーションなしのイメージ映像。
- リニアの走行感、スピード感が感じられる映像。
- 展示車両の達成した世界記録を強調する。
- 新時代の乗り物のすごさをアピールし、リニア開業への期待感を醸成する。

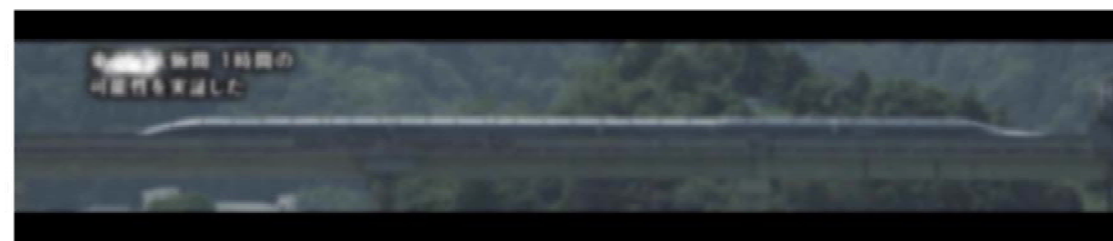
1. オープニング	• 走行感、スピード感のあるイメージ映像。
2. 山梨実験線の成果	• 山梨実験線で積み重ねてきた成果を資料映像をもとに構成。 • 目前の展示車両が樹立した世界記録、走行速度581km/h、すれちがい相対速度1000km/hを紹介する。
3. 延伸工事	• 営業開通を視野に入れて、更なる長距離試験のため進む延伸工事。
4. 延伸工事後の試験走行	• 営業車仕様のL0系の実車が発表。そして、いよいよ試験走行が始まった。
5. エンディング	• 開業後、東京や名古屋の都心に20～30分で行けることで広がる様々な生活シーン、ビジネスシーンをイメージさせる。

■インターバル（1～2分のループ、テロップ、SEあり）

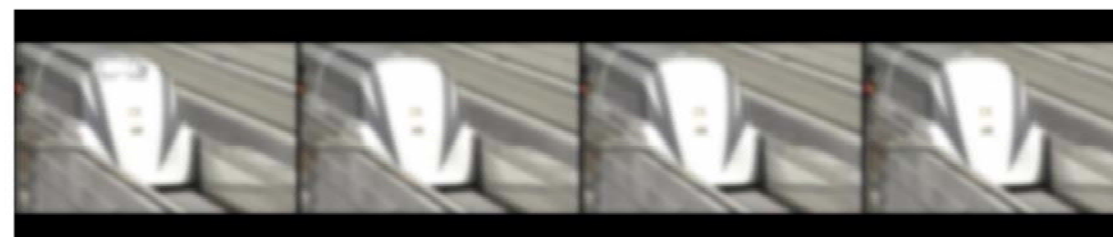
- 実験線を走るL0系の走行イメージ。
- 実写（試験開始から開館までの期間で撮影）+CG。
- 見学センター1階からの実写で目の前を猛スピードで走り去る様子を画面いっぱいに見せる。

■映像パターン例

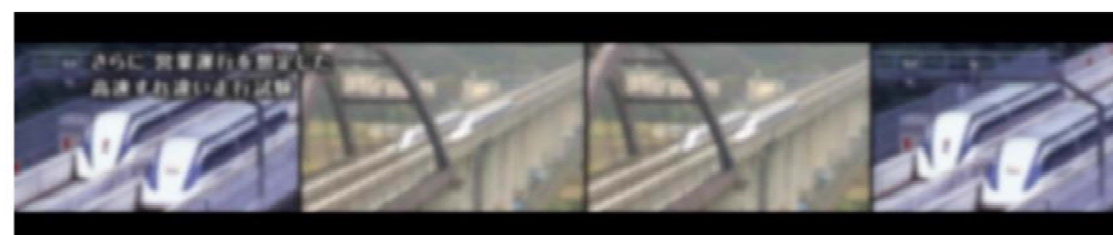
- 実写
- 真横
- 引き



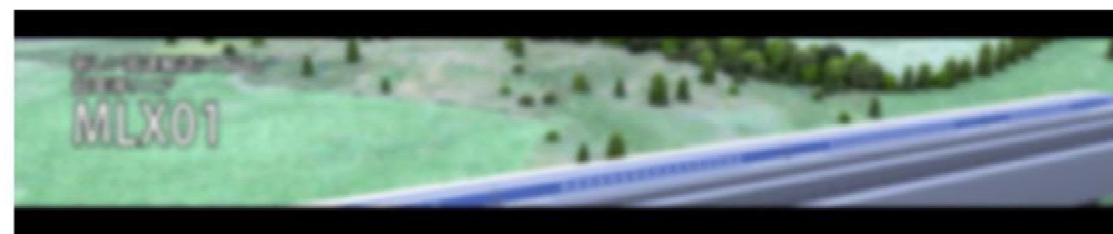
- 実写
- 斜め
- 4分割



- 実写
- 斜め
- 2×2



- CG
- 斜め
- 引き
- 明り



- CG
- 真横
- 寄り
- 明り



- CG
- 真横
- 寄り
- トンネル



- CG
- 斜め
- 寄り
- トンネル



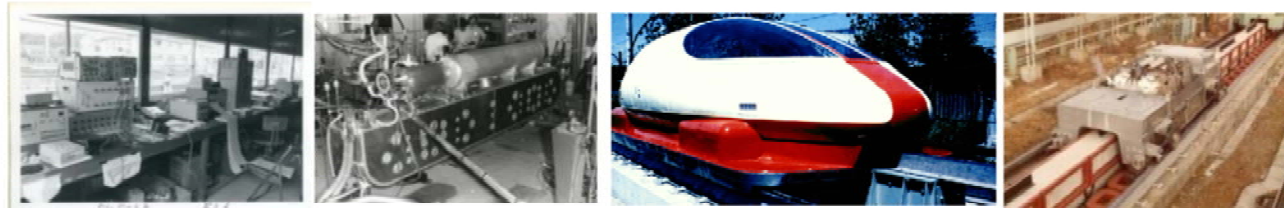
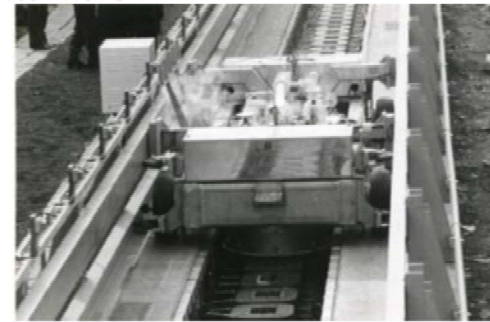
※全て同等品以上とする

映像方式	52インチモニター
映像時間	5分
NA/SE	NAなし/SEなし
テロップ	あり
スタート	ループ
映像素材	記録映像、記録写真等(支給)

■鉄道技術研究所時代の解説

- 1962年、リニアモータ浮上式鉄道の研究が国分寺の国鉄・鉄道技術研究所でスタートした。
- 1970年、超電導磁石による誘導反発方式による研究開発が本格的にスタート。
- 1972年、鉄道100周年の年、超電導磁気浮上走行に成功(ML100)。

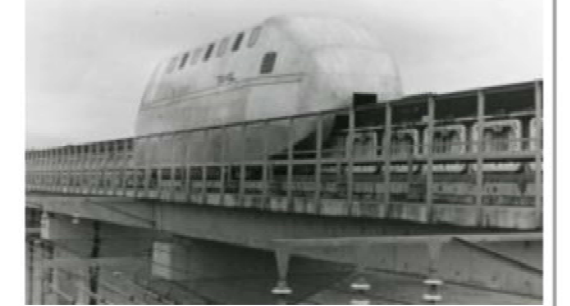
鉄道技術研究所時代



■宮崎実験線時代の解説

- 1977年、宮崎実験センター開設。逆T字ガイドウェイ走行実験開始。
- 1979年、最高速度517km/hを記録(ML500)。
- 1980年、U字型ガイドウェイ走行実験開始。
- 1987年、2両編成有人走行で400km/hを達成。

宮崎実験線時代



■山梨実験線時代の解説

- 1990年、山梨実験線着工。
- 1996年、山梨実験センター開設。
- 1997年、MLX01による走行試験開始。
- 1999年、相対速度1003km/h達成。
- 2003年、581km/hを達成。
- 2005年、「実用化の基盤技術が確立した」との評価を得る。
- 2011年、国土交通大臣よりJR東海に中央新幹線の建設指示が出される。

山梨実験線時代

